

【富山大学 ALL富山COC+シンポジウムを開催】

富山大学は、富山県全体を事業協働地域として若者の地元定着の向上を目指して取り組んでいる「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」推進の一環として、平成30年2月10日（土）に、同大学黒田講堂ホールにおいて、「平成29年度ALL富山COC+シンポジウム～富山発地方創生～」を開催した。県内外の高等教育機関、地方公共団体、経済界等の関係者や学生など、あわせて約500人が参加した。

第一部では、遠藤俊郎富山大学長から開会の挨拶、石井隆一富山県知事（山本修総合政策局長代読）、堂故茂参議院議員、文部科学省の信濃正範審議官、財務省の橋本敬二地方創生コンシェルジュからそれぞれ挨拶があった後、YKK株式会社の亀山秀夫執行役員人事部長から「パッシブタウンと地方創生」と題し、講演があった。次いで、富山国際大学の長尾治明地（知）の拠点事業推進室長、富山県立大学の奥田實COC統括コーディネーター、富山大学の尾山真COC+統括コーディネーターから各大学のこれまでの取り組み及び課題解決に向けた今後の展開について報告があった。

第二部では、「地方創生のための人材育成と地域定着」をテーマに、パネルディスカッションを行った。パネリストからは、「中高生が地域を学ぶ機会を大学が担ってほしい、地域のリーダーを育てることがミッション」などの要望が出されるなど活発な意見交換が行われた。



【開会挨拶をする遠藤俊郎富山大学長】



【挨拶をする信濃正範審議官】



【パネルディスカッションの様子】